

か か かん けん
河環研だより



アカザ (絶滅危惧II類)



カワムツ

1. 研究紹介「水路への間伐材の設置による魚類の生息場所の造成実験」
2. 魚卵消毒剤「パイセス」の新しい用法・用量について
3. 「下呂市農林水産業祭」で当所の研究内容を紹介
4. 「研究成果報告会」開催のお知らせ

1. 研究紹介 「水路への間伐材の設置による魚類の生息場所の造成実験」

小川は、狭くて小さいですが、多くの魚が成長や産卵に使う大切な場所です。しかし、現在、小川の多くは、護岸化・直線化が進み、「水路」へとつくり変えられています。こうした水路は、浅くて流れが単調で、魚の生息には適していません。近年、魚が定着しやすくなるよう水路が再改修されるようになりましたが、再改修は費用がかかることが悩みのひとつになっていました。

そこで、本研究では、費用をかけずに魚の生息場所を造成する方法を考えました。材料として注目したのは、間伐材です。本研究では、下呂支所の実験水路を調査に使い、間伐材を設置して淀みを造成した区間と、何もしないそのままの状態の区間(淀みのない区間)とで魚の生息量を比べました。



間伐材の設置による変化。もともとは、浅くて流れが単調な場所で、魚の生息には不向きでした。

そこで、写真のように間伐材を設置して淀みを造成し、流れに変化を持たせました。

今年8月と10月の調査の結果、淀みを造成した区間は、淀みのない区間よりも、遊泳魚(ウグイ・アブラハヤ・カワムツ・アマゴなど)の生息量が多くなっていて、造成の効果を裏付けることができました。

また、底生魚(カワヨシノボリ・カマツカ・アカザ・ドジョウなど)についても、10月の調査の結果から、造成の効果が示されました。



水路に遡上してきた ウグイ

今回造成した淀みは、簡素な構造であり、まだまだ改善の余地があります。ただし、費用も大型機械も必要なく、身近な材料を用いて手作業で実施できるという長所を持っています。

今後、資源量の増大または希少魚の保全を目指して、水路の有効活用がより注目されるでしょう。安価で簡易に実施できるこの方法は、実用的な手段のひとつになるものと考えています。(支所 岸 大弼)

2. 魚卵消毒剤「パイセス」の新しい用法・用量について

このほど、マス類やアユの卵に寄生するミズカビ類対策の水産用医薬品「パイセス」に新たな使用方法が認可されました。従来の方法と新たな方法との違いは下の表のとおりです。新しい方法は従来の方法の2倍の濃度で薬浴をする代わりに、薬浴の回数が少なくて済むという利点があります。ただし、廃液の希釈倍率も従来の方法の2倍となることにご注意ください。養殖場の水量によっては、この新しい方法が使えない場合も考えられます。使用方法についての不明な点は、当研究所までお問い合わせ下さい。(支所 中居 裕)

方法	濃度	間隔	薬浴時間	廃液の希釈倍率
従来の方法	1 / 10000	毎日 1回	1回 30分	3333倍 以上
新しく認可された方法	1 / 5000	2・3日に 1回	1回 30分	6666倍 以上

3. 「下呂市農林水産業祭」で 当所の研究内容を紹介



11月16日に下呂市萩原町で第2回下呂市農林水産業祭が開催されました。この産業祭は、農林水産物の地産地消をテーマとする下呂市主催の一大イベントです。当研究所では、研究内容を紹介し、飛騨地方の重要な水産魚種であるアマゴ、そして地域特産種であるアジメドジョウを展示

しました。アマゴは通常の個体のほか、当研究所で増殖に成功したアルビノ(白化個体)を展示し、注目が集まりました。

(支所 徳原哲也)



アマゴ アルビノ(白化個体)

4. 「研究成果報告会」開催のお知らせ

平成20年度の「岐阜県河川環境研究所 研究成果報告会」を下記の2会場で開催します。当研究所の最新の研究成果をご紹介しますのでぜひお越し下さい。発表者・演題など詳細については、後日あらためてご案内します。

各務原会場 日時：平成21年2月19日(木) 13:00 ~ (受付開始 12:30)
場所：岐阜県健康科学センター ハイビジョンシアター (各務原市那加不動丘1-1)

下呂会場 日時：平成21年2月20日(金) 13:00 ~ (受付開始 12:30)
場所：岐阜県下呂総合庁舎 5階 大会議室 (下呂市萩原町羽根2605-1)